

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	地域福祉と包括的支援体制	担当教員 (実務経験)	村山 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として高齢者施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30回	時間数	60時間
授業目的	地域共生社会は地域包括ケアシステムを中核として地域ごとに構築することをめざしている。その中心的役割としてソーシャルワーカーには大きな期待が寄せられている。本講義では、地域共生社会構築を担うソーシャルワーカーに必要な知識やスキルを実践事例とともに学ぶ。				
到達目標	地域共生社会や地域包括ケアシステムに関する考え方を理解し、地域課題を解決するために必要な社会資源や意見を述べることができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規出版 『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房編集部 ミネルヴァ書房				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験の結果を基本とし、受講態度も加味し総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の留意事項	教科書の流れに沿って授業を行うが、必要に応じて資料の配布を行う。なお、学習課題や理解の進捗状況により予定が前後する場合がある。テキストで基礎知識を学び、厚生労働省のホームページ等も確認して近年の政策動向を押さえておくこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題(村山)	オリエンテーション 地域社会の概念と理論		
	2		地域社会の変化・多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ		
	3		地域福祉と社会的孤立		
	4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(村山)	地域包括ケアシステム		
	5		生活困窮者自立支援の考え方		
	6		包括的支援体制とは		
	7		地域共生社会の構築とは・地域共生社会の実現に向けた各種施策		
	8	地域福祉ガバナンスと多機関協働(村山)	地域福祉ガバナンス		
	9		多機関協働を促進する仕組み		
	10		多職種連携・福祉以外の分野との機関協働の実際		
	11	地域福祉の基本的考え方(鈴木)	地域福祉の概念と理論		
	12		地域福祉の歴史・地域福祉の動向		
	13		地域福祉の推進主体		
	14		地域福祉の主体と福祉教育		
15	前期のまとめ(鈴木)	前期授業の要点整理と理解状況の確認			

16	地域を基盤としたソーシャルワークの展開(鈴木)	地域を基盤としたソーシャルワークの方法
17		住民の主体形成に向けたアプローチ
18		具体的な展開
19	災害時における総合的かつ包括的な支援体制(鈴木)	非常時や災害時における法制度
20		非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援
21	福祉計画の意義と種類 策定と運用(佐藤)	福祉計画の意義と種類、策定と運用
22		福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開
23		市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容
24		福祉計画の策定過程と方法
25		福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術
26		福祉計画における評価
27	福祉行財政システム(佐藤)	国・都道府県・市町村の役割
28		国と地方の関係・福祉における財源
29		福祉行政の組織及び専門職の役割
30	後期のまとめ(佐藤)	1年間の学習のまとめと振り返り

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	社会保障		担当教員 (実務経験)	中村 さやか 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	社会保障とは、社会生活及び経済的活動において、安心を確保するための社会的制度、仕組み、システムの総体であるといえる。具体的には、医療・福祉・労働等の分野における各種の制度運営が中心となる。本講義では、年金保険、医療保険、介護保険等の分野において、その運営システムの内容、課題等を概観し、より望ましい社会保障システムのあり方について紹介することを目的とする。				
到達目標	社会保障全体の構造、特に各社会保険制度の仕組みと課題を説明することができる				
テキスト・参考図書等	『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験結果と提出物にて成績を評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	%				
履修上の留意事項	指定した教科書を使用して主に板書の形式をとる。必要に応じて資料の配布を行なう。講義では、社会保障の基礎を理解することに重点を置きますが、国家試験に向けての応用力をつけるためにもテレビや新聞等で社会保障関係のニュースなどをチェックしておくと思います。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	導入／現代社会と社会保障	ライフサイクルからみた社会保障制度		
	2	社会保障の理念と機能	社会保障の定義・目的・機能		
	3	社会保障の歴史Ⅰ	海外社会保障史		
	4	社会保障の歴史Ⅱ	国内社会保障史		
	5	社会保障制度の体系	制度の役割や機能		
	6	社会保険の構造	5つの社会保険制度の基本構造		
	7	社会扶助の構造	公的扶助・社会手当・社会福祉		
	8	社会保障の財源と費用	社会保障給付費と財源		
	9	社会保障の財源と費用	社会保障と経済		
	10	年金保険制度の沿革と体系Ⅰ	公的年金制度の沿革		
	11	年金保険制度の沿革と体系Ⅱ	近年の制度改正		
	12	年金保険制度の概要Ⅰ	国民年金		
	13	年金保険制度の概要Ⅱ	厚生・共済年金保険		
	14	年金保険制度の概要Ⅲ	近年の動向		
15	医療保険制度の沿革と体系	医療保険制度の沿革と概要			

16	医療保険制度の概要 I	健康保険・共済制度
17	医療保険制度の概要 II	国民健康保険
18	医療保険制度の概要 III	後期高齢者医療制度と医療をめぐる最近の動向
19	介護保険制度創設の経緯	制度のねらい・制度改正
20	介護保険制度の概要 I	制度の枠組み
21	介護保険制度の概要 II	保険給付の仕組みと最近の動向
22	労働保険制度－労災保険 I－	沿革と概要
23	労働保険制度－労災保険 II－	仕組み
24	労働保険制度－雇用保険 I－	沿革と概要
25	労働保険制度－雇用保険 II－	仕組み
26	社会保障と民間保険	社会保険と民間保険
27	社会保障と民間保険	民間保険の概要
28	社会保障と民間保険	企業年金等
29	諸外国における社会保障制度	欧州の社会保障制度
30	諸外国における社会保障制度	アメリカ、アジアの社会保障制度

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	権利擁護を支える法制度		担当教員 (実務経験)	鈴木 道代 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	権利擁護に関連する幅広い法的知識を身につけることを目的とする。				
到達目標	①ソーシャルワーク実践における権利擁護の意義を理解し、説明できる。②法に関連する概念を理解し、説明できる。③ソーシャルワーク実践にかかわる法として憲法、民法、行政法を理解し、説明できる。④成年後見制度の概要を理解し、説明できる。⑤日常生活自立支援事業の概要を理解し、説明できる。⑥苦情解決の仕組みを理解し、説明できる。⑦インフォームド・コンセントと個人情報保護の概要を理解し、説明できる。⑧意思決定支援の概要を理解し、説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』日本ソーシャルワーク教育学校連盟 中央法規出版 参考図書:『社会福祉小六法2023』ミネルヴァ書房				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験、授業内での課題への取組状況・授業への参加状況等で評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の 留意事項	・教科書、プリント、参考資料を使用します。・毎回プリントを配布します。ノート代わりにプリントは各自で整理しファイルしてください。・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。・日常生活で見聞する権利擁護の活動、権利侵害に関する情報に関心を向けてください。・講義内で取り扱いのできなかったテーマについては、各自教科書を読み学習してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、権利擁護の意義	・シラバスから授業計画、評価方法の確認 ・権利擁護とソーシャルワーク		
	2	法の基礎	・法に関連する概念		
	3	憲法①	・憲法の概要		
	4	憲法②	・基本的人権		
	5	行政法	・行政法の概要、行政不服申立制度、行政事件訴訟制度		
	6	民法①	・民法の概要、契約の仕組み、不法行為		
	7	民法②	・親族法(夫婦・親子)		
	8	民法③	・相続法(遺言・相続)		
	9	成年後見制度①	・法定後見制度の概要と三類型(後見・保佐・補助)の概要		
	10	成年後見制度②	・最近の動向と課題、成年後見制度利用支援事業の概要、成年後見制度利用促進法		
	11	成年後見制度③	・任意後見制度の概要		
	12	日常生活自立支援事業	・日常生活自立支援事業の概要		
	13	苦情解決制度の仕組み	・苦情解決の仕組みの概要		
	14	意思決定支援	・意思決定支援の概要		
15	インフォームド・コンセントと個人情報保護	・インフォームド・コンセントの概要 ・守秘義務と個人情報保護			

授業科目 (科目ID)	社会福祉の原理と政策		担当教員 (実務経験)	吉田 竜平 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として障がい者支援施設に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30回	時間数	60時間
授業目的	本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の指定科目であることを踏まえ、次の7点を目標とする。①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。⑤福祉政策の動向と課題を踏まえ、関連施策や包括的支援について理解する。⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の歴史、思想・哲学、理論の基本的な内容について説明できる。 ・福祉政策の展開過程、構成要素、必要と資源の概念、関連する具体的な施策について説明できる。 ・福祉サービスの供給と利用過程、諸外国の福祉政策の基本的な事柄を説明できる。 ・ソーシャルワーカーが、社会福祉の理論、歴史、政策を学ぶ意義について説明できる。 				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉の原理と政策』中央法規。をテキストとして指定する。 ・授業毎にテキストの要点を記載したレジュメを配布する。 ・必要に応じて補助資料や、視覚教材を使用することがある。 				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	中間テストと期末試験の結果、提出物や授業参加姿勢を総合して評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	10%			
その他	%				
履修上の留意事項	①授業は原則、講義形式で実施する。②本科目は、国家試験でも点数が取りにくい科目であるが、苦手意識をもたずに意欲的に授業に参加することを期待する。③授業においての不明点や疑問点に関しては、授業終了後等に質問をし、解消することを心がけること。④私語などの他学生への迷惑となる行為は厳禁とする。⑤社会情勢や社会福祉、社会保障に関する各種報道に関心を持つことを期待する。⑥専門用語が頻出する科目であるが、可能な限り平易な表現で説明することを心がける。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、社会福祉の原理	授業の目的と到達目標、年間授業予定の確認、社会福祉の原理の意味と展開		
	2	社会福祉の歴史①	社会福祉の歴史を学ぶ視点		
	3	社会福祉の歴史②	欧米の社会福祉の歴史的展開		
	4	社会福祉の歴史③	日本の社会福祉の歴史的展開		
	5	社会福祉の思想・哲学、理論①	社会福祉の思想・哲学		
	6	社会福祉の思想・哲学、理論②	社会福祉の理論		
	7	社会福祉の思想・哲学、理論③	社会福祉の論点		
	8	社会福祉の思想・哲学、理論④	社会福祉の対象とニーズ		
	9	社会問題と社会構造①	現代における社会問題		
	10	社会問題と社会構造②	社会問題の構造的背景		
	11	福祉政策の基本的な視点①	福祉政策とは何か		
	12	福祉政策の基本的な視点②	福祉政策の理念、概念		
	13	福祉政策におけるニーズと資源①	ニーズ(必要)について		
	14	福祉政策におけるニーズと資源②	リソース(資源)について		
15	中間まとめ	前半の授業内容について小テストの実施			

16	福祉政策の構成要素と過程①	福祉政策の構成要素
17	福祉政策の構成要素と過程②	福祉政策の過程と評価
18	福祉政策の動向と課題①	福祉政策と包括的支援の現状
19	福祉政策の動向と課題②	福祉政策と包括的支援の課題
20	福祉政策と関連施策①	保健医療施策、教育施策等
21	福祉政策と関連施策②	労働施策、住宅施策等
22	福祉サービスの供給と利用過程①	福祉供給部門
23	福祉サービスの供給と利用過程②	福祉供給過程
24	福祉サービスの供給と利用過程③	福祉利用過程
25	福祉政策の国際比較①	国際比較の視点と方法
26	福祉政策の国際比較②	欧米の福祉政策の動向
27	福祉政策の国際比較③	東アジアの福祉政策の動向、福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題
28	これからの社会福祉①	社会福祉の出発点と到達点
29	これからの社会福祉②	社会福祉の展望、ソーシャルワーカーにとっての社会福祉の理論・歴史・政策
30	年間のまとめ	後半の内容および年間を通しての振り返りを行う

授業科目 (科目ID)	介護の基本Ⅲ		担当教員 (実務経験)	高橋 銀司 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として訪問介護事業所に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	より質の高い介護福祉士となるために、介護現場における連携の在り方を基礎から応用まで学習する。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えることのできる視野を「多職種連携・協働」から学び、持続可能な介護福祉士としての素養を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、提出物、その他(平常点)など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・視聴覚機器による学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされています。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	介護実践における連携について		
	2	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働とは 多職種・連携を要請する社会の動き		
	3	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 多職種連携・協働が阻むもの		
	4	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の効果 (演習)多職種連携・協働と社会の動きについて		
	5	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	介護現場での多職種連携が必要とされる意味 多職種連携・協働のためのチームづくり		
	6	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多様な視点と受容が必要とする協働 課題解決に対する多職種のかかわり		
	7	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種協働を成功させるための介護技術と知識 多職種とホスピタリティの視点		
	8	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携に求められるコミュニケーション能力 (演習)チームに携わっているべき要素について		
	9	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	社会福祉士、介護支援専門員、医師、歯科医師、看護師、保健師		
	10	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士		
	11	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	公認心理士、薬剤師、サービス提供責任者、その他		
	12	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	専門職連携実践とは何か 多職種における地域での連携・協働		
	13	第4章 協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	特別養護老人ホームの連携の実態調査から自立支援介護における多職種連携の実際		
	14	第4章 協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際	保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際に関する総合的な演習		
15	総合まとめ	協働する多職種の機能と役割のおさらい			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護の基本IV		担当教員 (実務経験)	阿部 幸恵 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学ぶ。 ②介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。				
到達目標	①介護における事故防止の基本的知識を理解し、危険予知と危険回避が考えられ述べることができる。 ②労働環境の管理について理解ができ、自己の健康管理ができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	・左記レポートは授業内で課題を提示します。その際の提出用紙、内容、提出期限に該当します。 ・左記「その他」については、グループディスカッション時の参加態度、姿勢、発言、記録、質疑応答、自らメモを取り考える、などの主体的な取り組み姿勢を求めます。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	テキストを基本とし、板書・プリント・グループディスカッションによる学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことへの応用や実践知識の展開がなされて ます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第1節～2節 安全の確保 リスクマネジメントとは	介護における安全の確保の重要性 介護事故と介護過誤 事例検討		
	2	第2節 リスクマネジメントとは何か	苦情解決制度と事例検討 身体拘束		
	3	第2節 リスクマネジメントとは何か	組織体制の理解、ハインリッヒの法則、グループワーク		
	4	第2節 リスクマネジメントとは何か	生活の中のリスクと対策、医療行為の確認		
	5	第2節 リスクマネジメントとは何か	AKTシートを通し学びを深める グループワーク		
	6	第2節 リスクマネジメントとは何か	非常災害を考える 安全を確保するには		
	7	第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント 第3節 感染症対策	高齢者の特徴、感染症の基礎知識		
	8	第3節 感染症対策	生活の場での感染症対策 感染症発生時の対応		
	9	第3節 感染症対策	主な感染経路 個別の感染症対策 グループでまとめ作問する		
	10	第3節 感染症対策	薬剤耐性菌の理解 感染に関するまとめ グループで作問する		
	11	第5章 介護従事者の安全 第1節 健康管理の意義と目的	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法制度		
	12	第2節 心の健康管理	ストレスとは何か、その対処法と介護従事者がかかりやすい病気		
	13	第3節 身体の健康管理	介護従事者の健康障害 腰痛予防対策の考え方と取り組み・グループワーク		
	14	第3節 身体の健康管理	腰痛対策・予防について各グループより発表		
15	全体のまとめ	今までの振り返り・定期試験対策			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	コミュニケーション技術		担当教員 (実務経験)	山根 英香 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として社会福祉事務所に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	①社会福祉士としての専門的対人援助スキルを理解し演習する ②現場でのチーム力を高めるためのアプローチについて理解し演習する				
到達目標	社会福祉士の視点で、対人援助場面において適切なコミュニケーションをとることができる				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト、レポート、講義への出席、演習への参加態度を総合的に評価します		
	レポート	25%			
	小テスト	50%			
	提出物	%			
	その他	25%			
履修上の 留意事項	演習は学生の皆さんの参加で成立します。積極的に受講されることを期待します。配布したプリントやノートは小テストの際にみることができます。講義ごとに整理しておくことをお勧めします。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション①	講義の進行の説明、受容と共感		
	2	利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション②	非言語的コミュニケーション		
	3	利用者、家族との信頼関係をつくるコミュニケーション③	面接の演習		
	4	他職種との信頼関係をつくるコミュニケーション	自己開示		
	5	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション①	沈黙時のコミュニケーション		
	6	利用者のニーズを引き出すコミュニケーション②	ソリューションフォーカスアプローチ		
	7	わかりやすい説明と同意の引き出し①	プレゼンテーション		
	8	わかりやすい説明と同意の引き出し②	苦情・クレーム時のコミュニケーション		
	9	主体者を支援するコミュニケーション①	コーチング		
	10	主体者を支援するコミュニケーション②	ストレングス・エンパワメントアプローチ		
	11	情報を共有する上でのコミュニケーション	会議やミーティングでのコミュニケーション		
	12	コミュニケーション力を高めよう①	アサーション		
	13	コミュニケーション力を高めよう②	ディベート王選手権		
	14	コミュニケーション力を高めよう③	事例検討の方法		
15	総括	全講義内容の振り返りと演習			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	生活支援技術V		担当教員	山谷 博美	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	障害があっても自立を目指し、個性を尊重した介護の展開ができるための知識と技能を習得することを目的とする。また、これまでに学んだ生活支援技術の知識や技術を基礎として、多様化する社会や日々進化する生活支援に対応するための技術を学ぶ機会とする。				
到達目標	各領域の障害について理解し、生活全体に着目した汎用性の高い生活支援技術の知識と技法を身につける。また福祉用具、介護ロボットや地域支援における介護福祉士に必要な知識を身につけ、対象者の能力に応じた福祉用具等の選択や活用ができる能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『福祉用具専門相談員研修テキスト』シルバーサービス振興会 日本医療企画				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	10%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	1～3コマを実施後に介護実技試験を行います。自信をもって実習に臨めるよう繰り返しの練習をしましょう。 26～28コマは、普通救命講習Ⅱの修了を目的に実施します。実施日に遅刻・欠席の場合、補講は行いません。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護技術の総まとめ(山谷)	移動《実技》		
	2	介護技術の総まとめ(山谷)	着脱《実技》		
	3	介護技術の総まとめ(山谷)	排泄《実技》		
	4	視覚障害に応じた介護①(山谷)	視覚障害者の生活理解と観察視点		
	5	視覚障害に応じた介護②(山谷)	ガイドヘルプ《実技》		
	6	福祉用具①(山谷)	福祉用具の意義と活用①		
	7	福祉用具②(山谷)	福祉用具の活用①(施設見学)		
	8	福祉用具③(山谷)	福祉用具の活用②(施設見学)		
	9	介護ロボット①(山谷)	介護ロボットの現状と展望		
	10	介護ロボット②(山谷)	介護ロボットの活用①(施設見学)		
	11	介護ロボット③(山谷)	介護ロボットの活用②(施設見学)		
	12	福祉用具作成①(山谷)	事例検討①		
	13	福祉用具作成②(山谷)	事例検討②		
	14	福祉用具作成③(山谷)	事例検討③		
15	福祉用具作成④(山谷)	事例報告会			

16	肢体不自由に応じた介護(泉)	肢体不自由の理解 観察の視点 支援の展開
17	感覚器障害に応じた介護(泉)	感覚器障害の理解 重複障害(盲ろう)の理解 観察の視点 支援の展開
18	心臓・呼吸機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】心臓機能障害の理解 呼吸機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
19	腎臓機能障害・肝臓機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】腎臓機能障害の理解 肝臓機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
20	排泄機能障害・HIVによる免疫機能障害に応じた介護(泉)	【内部障害】膀胱・直腸機能障害の理解 小腸機能障害の理解 HIVによる免疫機能障害の理解 観察の視点 支援の展開
21	重症心身障害、知的・精神障害に応じた介護(泉)	重症心身障害の理解 知的障害の理解 精神障害(統合失調症 気分障害)の理解 観察の視点 支援の展開
22	高次脳機能障害・発達障害に応じた介護(泉)	高次脳機能障害の理解 発達障害(自閉症スペクトラム障害 注意欠陥多動性障害)の理解 観察の視点 支援の展開
23	筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病に応じた介護 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護(泉)	【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)とは パーキンソン病とは 悪性関節リウマチとは 筋ジストロフィーとは 観察の視点 支援の展開
24	部位別の障害に応じた介護(障害別介護のまとめ)(泉)	上部・下部機能の障害別の介護
25	応急手当の知識と技術 災害時における生活支援(泉)	応急手当とその実際 被災地で活動する際の心構え 災害時における生活支援
26	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[講義]
27	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[実技]
28	緊急時の対応 救命講習(泉)	普通救命講習Ⅱ[実技]
29	人生の最終段階における介護(泉)	人生の最終段階の意義と介護の役割
30	人生の最終段階における介護 まとめ(泉)	人生の最終段階における介護 授業の振り返り

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護過程の実践Ⅱ		担当教員 (実務経験)	高橋 綾 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、発表への積極的姿勢など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	30%				
履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合がありますので、課題の提出期限は必ず守ってください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護過程実践Ⅰの振り返り	介護過程実践Ⅰの振り返り		
	2	事例検討	事例検討Ⅰ①		
	3	事例検討	事例検討Ⅰ②		
	4	事例検討	事例検討Ⅰ③		
	5	事例検討	事例検討Ⅰ④		
	6	介護の実施①	介護の実施 実施の記録①		
	7	介護の実施②	介護の実施 実施の記録②		
	8	介護の実施③	情報の共有と個人情報の保護 ケーススタディの記入方法(実施状況)		
	9	評価	評価の意義と目的 評価の内容と方法、ケーススタディの記入方法(評価)		
	10	事例検討	事例検討Ⅱ①		
	11	事例検討	事例検討Ⅱ②		
	12	事例検討	事例検討Ⅱ③		
	13	事例検討	事例検討Ⅱ④		
	14	定期試験対策①	定期試験対策①		
15	国家試験対策①	国家試験対策①			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護研究	担当教員 (実務経験)	高橋 綾 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、各領域で学んだ知識と技術を統合し、調べ学習をするなかで表現方法、分析力及び思考能力を身につけることを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習を通し、自分の興味のあることに対しての情報収集力を習得する。 他者にわかりやすく伝える力(書く・話す)を習得する。 文献や報告書などを読み、自分の考えまとめる力を習得する。 				
テキスト・参考図書等	指定教材はないが、各自のテーマに沿った教材を用意する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、主体的な取り組み、自身のテーマに関する(発表内容・わかりやすいパワーポイント・質疑応答など)により総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
	その他	40%			
履修上の留意事項	福祉に対する理解、どのような援助者になりたいか、自身のテーマと考えを深めるために、文献検索や収集においても主体的に行ってください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護研究Ⅰ(発表資料の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成①		
	2	介護研究Ⅰ(発表資料の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成②		
	3	介護研究Ⅰ(発表資料の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成③		
	4	介護研究Ⅰ(発表資料の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成④		
	5	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑤		
	6	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑥		
	7	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑦)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑦		
	8	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑧)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑧		
	9	介護研究Ⅱ(抄録の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成①		
	10	介護研究Ⅱ(抄録の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成②		
	11	介護研究Ⅱ(抄録の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成③		
	12	介護研究Ⅱ(抄録の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成④		
	13	介護研究Ⅱ(抄録の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成⑤		
	14	介護研究Ⅱ(抄録の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成⑥		
15	介護研究Ⅲ(発表資料の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成①			

16	介護研究Ⅲ(発表資料の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成②
17	介護研究Ⅲ(発表資料の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成③
18	介護研究Ⅲ(発表資料の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成④
19	介護研究Ⅲ(発表資料の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑤
20	介護研究Ⅲ(発表資料の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑥
21	介護研究発表準備①(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認①
22	介護研究発表準備②(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認②
23	介護研究発表準備③(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認③
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護総合演習Ⅱ		担当教員 (実務経験)	高橋 綾 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケア	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数
授業目的	介護福祉実習Ⅰの振り返り、他者とのディスカッションを通して自己を客観的に振り返り介護福祉実習Ⅱに向けた課題を明確化・施設理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。				
到達目標	自己の課題が明確化され、介護福祉実習Ⅱにおける課題克服にむけての取り組みが具体的に述べる事ができる。施設理解が深まり、実習生に求められる姿勢、視点、記録の意味を理解し、実習に向けた心の準備が整う。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守をお願いします。理解できないままにしておくとう介護福祉実習に影響します。不安取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(山谷)	介護福祉実習Ⅱの目的・実習内容		
	2	介護福祉実習Ⅰの振り返り(山谷・泉・高橋)	一年次実習の振り返りを通して、自己課題を明確		
	3	実習生の役割(泉)	取り組み姿勢・心得を再確認し、するべき準備を明		
	4	記録物について①(泉)	個人票を作成する		
	5	記録物について②(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成す。		
	6	記録物について③(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成す。		
	7	記録物について④(山谷)	実習日誌を記入する意義・目的、ケーススタディの		
	8	記録物について⑤(高橋)	誓約書・同意書の作成、お礼状の書き方、記録物		
	9	実習に向けての事前準備①(高橋)	コミュニケーションの基礎的知識・技術の習得		
	10	実習に向けての事前準備②(高橋)	介護実践に必要な知識・技術の習得		
	11	実習に向けての事前準備③(高橋)	カンファレンスの意義・目的・技術の習得		
	12	実習施設の理解①(高橋・泉)	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わり		
	13	実習施設の理解②(高橋・泉)	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わり		
	14	介護福祉実習Ⅱオリエンテーション	実習の目的・意義・心構え・提出期限の再確認		
15	〃	施設別面談			

ハウスに勤務

1単位

30時間

する。介護福祉実習Ⅱに向けた

します。

なく実習に向かえるよう積極的に
。

化する

明確化する

る

る

記入方法の確認

の提出期限、留意点の再確認

を理解する①

を理解する②

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護総合演習Ⅲ		担当教員 (実務経験)	高橋 綾 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	①介護福祉実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。 ②質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる介護研究の意義とその方法について理解する。				
到達目標	①実習のまとめ、報告会などを通じ学びを共有・深化させ自己の課題と展望を考えることができる。 ②介護研究の意義・目的を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	今までの実習の総括となります。提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守をお願いします。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護福祉実習Ⅱのまとめ①(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ①		
	2	介護福祉実習Ⅱのまとめ②(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ②		
	3	介護福祉実習Ⅱのまとめ③(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ③		
	4	介護福祉実習報告会①(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会①		
	5	介護福祉実習報告会②(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会②		
	6	介護研究オリエンテーション①(高橋)	介護研究の意義と目的		
	7	介護研究オリエンテーション②(高橋)	研究の基礎、方法等		
	8	介護研究のテーマの作成①(高橋)	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について①		
	9	介護研究のテーマの作成②(高橋)	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について②		
	10	介護研究計画書作成①(高橋)	介護研究計画書作成①		
	11	介護研究計画書作成②(高橋)	介護研究計画書作成②		
	12	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込②)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込①		
	13	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込③)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込②		
	14	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込④)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込③		
15	介護研究中間まとめ(泉・高橋・山谷)	介護研究発表に向けた今後の確認			

